

安全な原発はあるか 脱原発へいまこそ声を

地震と津波よりも原発事故が重大で深刻な問題となっています。「安全で、起こるはずのない原発事故」が地震と津波を大きく飲み込んでいます。亡くなられた方はその多くが、地震と津波が原因です。しかし、何と皮肉なことでしょうか。この現実をシッカリと胸に刻み込んで、復興に向けていかなければなりません。

この様ななか菅首相が21日、福島県田村市の体育館で、福島第1原発周辺住民約60人が避難生活が続けている避難所を訪れたことが報道されました。避難されている方から、原発事故から1カ月以上も経過後の初訪問に「もっと早く来てほしかった」、「早く事故の収束を」といった不満の声が相次いだそうです。なかでも、あいさつもせず目の前を素通りしたことに葛尾村から避難している男性が菅首相を呼び止めて抗議の意志を表したところ、困惑した様子で、その後は1世帯ずつ丁寧に話して回り、その体育館での滞在時間は予定を大幅に超えたそうです。

この「予定を大幅に越えた」理由は、首相が一生懸命やっている、とアピールしたかったのだと思いますが、おざなりの訪問で何とか乗り切ろうという姿勢を見抜いた避難生活をしている方々の怒りからだと思います。そして、放射能の飛散に対する具体的な事実が明らかにされていないことは勿論だと思いますが、原発に対する考えが具体的でないことへの怒りも重なっていたと思います。

少し前ですが、朝日新聞「声」欄に見出しの「脱原発へいまこそ声を」という投書がありました。これは、川勝静岡県知事が、「原発依存からかじを切れ」と朝日新聞を通して述べたことへの「賛意と敬意」を書いたものでした。

静岡県には、福島原発と同じ沸騰水型炉を有する浜岡原発があり、地元民が一樣に不安の毎日を送っている、ということでした。その様な、県民の不安のなかで、知事が「原発依存からかじを切れ」と、その考えをいち早く明らかにしたことがとても大切なことだ、ということがハッキリ分る投書でした。

投書は、「危険でやっかいな原発に代わる、安全でクリーンなエネルギーの開発を」と日本のあちこちで声を上げていくことだろう。と結ばれていました。

本当にその通りです。特に、浜岡原発は私たちにとっては、とても近くの問題です。J R 東海にとっては切実な問題です。安全な原発などありません。何としても止めよう 浜岡原子力発電所、と声に出し、行動しましょう。